

千葉の海辺、新聞コンクール

船橋の民話題材に児童が新聞製作

千葉日報

発行所 千葉県中央区中央4丁目14番10
千葉日報社
電話 043(222)9211

©2025

4910855832854
00164

入賞者の作品は
B・C・D面に掲載

あす表彰式

船橋市内に伝わる民話「雷どけ塚の白へび」を題材に、児童が新聞製作をする「千葉の海辺、新聞コンクール(海と日本2024)」が本年度、初めて開かれた。子ども記者は、新聞記事の書き方や写真の撮り方を教わり、民話に関連する場所を取材。船橋市の魅力を1ページにまとめた。厳正な審査の結果、最優秀賞に船橋市立飯山満小5年の林下漢音さんが輝き、優秀賞に同市立法典西小5年の高橋舞衣さんと同市立若松小4年の山本杏奈さんが選ばれた。1日に市内で表彰式が開かれる。



取材ツアーに参加した児童記者ら

地域の魅力1ページにまとめる

「千葉の海辺、新聞コンクール(海と日本2024)」は、一般社団法人千葉県教育・文化・スポーツ振興協会(松本祥彦代表理事)が主催。日本財団などオールジャパンで推進する「海と日本プロジェクト」の一環で、国内に残された海にまつわる「民話」「伝承」を選定し、子どもがさらに次世代へと伝える機運醸成を狙って企画した。参加者は市内の小学4〜6年生を対象に公募した。

最優秀賞に 林下さん (飯山満小5年)

取材ツアーでは、民話の舞台とされる長福寺、かつて灯台の役目を果たした灯明台のある船橋大神宮、海の豊かさを実感できるふなばし三番瀬公園などを訪問した。各所で担当から民話に関する歴史や伝承など、白へびが灯台の役割を果たすストーリーでアニメ化されている。コンクールには千葉日報社が全面的に協力。座学で子ども記者は、まず、同社記者から新聞作りの説明を受ける。児童記者



「雷どけ塚」とされる長福寺の裏山で取材



本職記者(中央、右)から書き方の助言を受ける児童記者

総評

今回が初の試みとなった「千葉の海辺、新聞コンクール(海と日本2024)」では、地元の民話を小学生が取材し、新聞制作に取り組みました。今まで知らなかった歴史や文化を学び、それぞれの視点で考えながら完成させた作品はどれも素晴らしいものでした。参加した子ども記者の皆

歴史や文化、児童目線で探る

千葉日報社東京支社長 菊池幸陽

さんは、新聞作りを通じて、事実と自身の考えが伝わり人に読ませる文章や写真撮りやすくとまとまっている点影を学びました。その中で、記事内容を端的に表し、人の目を引き付ける見出しづくりは大変だったと思えます。この事業は、地元の歴史・文化の大切さ、新聞を通じて人に伝えることができることを実感しました。これから最優秀賞には船橋市立飯山満小5年、林下漢音さんと、優秀賞には同市立法典西小5年の高橋舞衣さんと同市立若松小4年の山本杏奈さんが選ばれました。林下さんも継続できればと思います。取材した

本職記者から新聞作りの説明を受ける児童記者



雷どけ塚の白へびのアニメの一場面
日本語話ばし協会

挑戦しよう、まず寝よう。

ぐっすり眠ると、
身体に心に、チカラが湧いてくる。
実は、睡眠は毎日を、
人生を豊かにできるんだ。
だから、
挑戦しよう、まず寝よう。



ドリエル

一時的な不眠症状の緩和

